令和8年度

長生小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇基礎・基本の確実な定着を図り、主体的・対話的に学び合い、表現できる児童の育成
　～学びの質を向上させ、主体的に活動できる児童の育成～

校長　上田　尚

学力向上推進員　眞井　裕生

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇基礎的・基本的な知識・技能の定着には一定の成果が見られ、学習の定着に効果が出ている。 ●読書の質に個人差があり、語彙が十分でない児童が見られる。 ●初めて読む文章の内容を的確に読み取ることや、理由・根拠を示して説明することに苦手意識がある児童がいる。 ●学力の二極化が見られ、既習事項の定着に差が生じている。	・基礎・基本の定着を図り、単元テストで8割以上の正答を目指す。 ・既習事項の確認と復習の機会を設け、学習内容の確実な定着を図る。 ・様々な文章に触れ、筆者の意図を的確に読み取る力を育成する。 ・多様な種類の本に親しみ、語彙を増やし、読書の質を高める。	・朝の活動で視写や音読を取り入れ、文字や語彙に親しむ。 ・授業中に既習内容を確認する時間を設け、復習の機会を増やす。 ・学力向上プリント等を活用し、初読の文章に触れる機会を増やす。 ・理由や根拠を明確にさせる発問を工夫し、説明する力を育てる。 ・音読集会や読み聞かせの機会を増やし、読書に親しむ環境を整える。	・道徳の教科書（全学年）・子ども鳴潮（4～6年）・学力向上プリント（全学年）を用いて、初読の文章を読み取る学習を増やす。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇雛型があればそれを活用して表現できる力はある程度身に付いている。 〇友達の意見を聞いて思考を広げることができる。 ●考えや思いをもつことはできているが、適切な表現をすることが苦手な児童が多い。	・雛型を活用しながら、自分の意見を文字や言葉にして表現することができる。 ・友達の意見を聞いて、自分の考えと比べたり、疑問をもったりし、考えを深めることができる。 ・語彙を増やし、適切に表現することができる。	・国語や算数の教科書の雛型を使い、自分の意見を文字や言葉にして表現する機会を増やす。 ・授業だけでなく、行事や学級活動などの場面で、児童同士で話し合いをする場面を設定し、自己評価させる。 ・読み聞かせや音読集会などを開き、本に親しむ時間を設定する。 ・並行読書をする時間を設定する。	・児童が書いた日記や作文の中でモデルになるような文章を紹介し、参考にしてきた児童の日記をさらに紹介すると、文章力が伸びてきたので引き続き行う。 ・児童が書いた発表資料をグループで推敲する時間を確保する。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇主体的に自主学習に取り組んでいる。 〇学習方法を自ら工夫している。 ●自分の意見や考えを声に出して表現することが苦手な児童もいる。 ●活動内容を把握し、その場に応じた適切な発言ができない児童もいる。	・課題解決のために自分の意見をもったり、進んで意見を述べたりすることができる。 ・自分の意見や考えを、自分の言葉で発言することができる。	・ペア学習やグループ学習を活用して、自分の意見を話すだけでなく、友達の意見を聞いて自分の考えを深める。 ・タブレットを活用して、意見や考えを共有し、自分の学習を深める。	・「間違っているかもしれない」等の自信のなさが考えを形成する際の障壁になっている。 ・ペア学習やグループ学習を増やすことで、友達の意見をもとに自分の考えを形成することができはじめてきた。 ・そもそも自分の考えの形成ができていないことが発表等への苦手意識につながっている。 ・ペア学習等は自分の考えをもつための手がかりにもなっている。		